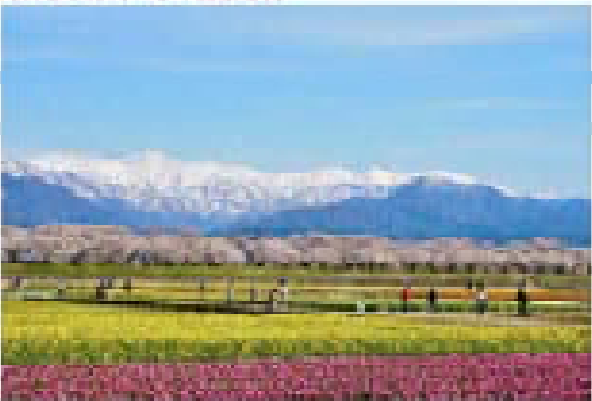


改 定 案	現 行
■ 地域づくりにおける特産物との調和 景観法の施行後、全国の地方公共団体で景観条例の制定、景観計画の策定が行われていることに加え、独自の地域景観計画や施策が策定されている場合もある。また、地域農業の将来の在り方を定めた地域計画が策定されている場合、将来の水田景観や棚田景観といった自然的景観構成要素が変化することが考えられる。そのため、景観配慮計画において現状の景観を維持するだけでなく、地域計画等が持つ特産物との調和にも配慮することが望ましい。 これまでの景観配慮計画では、CG等の景観シミュレーション等の技術が活用され、施設整備後の景観を予測し、後刻に策定してきた。こうした技術を活用しつつ、将来像を具体化するCGシミュレーションを行い、農業農村整備事業の計画を契機に景観形成や地域づくりへの施策を促進する働きかけを行うことも重要となる。 ■ 事業による景観資源の創出 景観整備により広大な面的広がりを持つ景観が形成され、これを生かした作楽舞が盛んな平農村景観を創出し、地域活性化に取り組んでいる事例が見られる。 その厚富の事例は、はる壁園を行った景観を生かし、桜雪の餅まき祭の「白色」、桜の「桃色」、菜の花の「黄色」、チューリップの「赤色」が盛りなす食彩豊かな飲食を「春の四色丼」とも付け、美しい景観を活用して地域活性化に取り組んでいるものである。 このように、事業を契機に景観資源を創出し、周辺の景観構成要素と風を合わせて地域をPRする取組が期待される。 〔あさひ丸井「春の四色丼」〕  香川美地区（香川香川町）（写真提供：香川町観光協会）	

4.2.2 基本構想と景観配慮対策の検討

計画的かつ効果的に良好な景観を形成するために、事業による影響を把握し、景観配慮の基本原則を踏まえた景観配慮対策を検討する。

【解 説】

1. 基本構想の作成

「景観配慮の手引き」によると、基本構想は「地域景観の概況」、「景観保全目標」、「景観配慮区域図」、「景観配慮区域における景観配慮の方向性」などを構成内容として作成することとされている。

一方で、田園環境整備マスタープラン、農村環境計画、景観法に基づく景観計画や景観に係る条例等の各種計画が、これまで多くの市町村で定められてきている。基本構想の作成に当たっては、**それらの既存の計画**と整合を図りつつ不足する内容について、「景観配慮の手引き」に沿って作成することとなる。

表 4-1 基本構想の構成と主な内容の例

構 成	主な内容
1. 地域景観の概況	地域の概況 地域景観特性等調査の分析結果 取りまとめまでの経緯
2. 景観保全目標	地域景観の保全の姿及び景観保全の基本的な考え方
3. 景観配慮区域図	調査において作成された地域景観特性図を踏まえた景観配慮区域の配置
4. 景観配慮区域における景観配慮の方向性	景観配慮区域ごとの特性 景観配慮区域ごとの課題 景観配慮区域ごとの方向性

出典：「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」

2. 事業による周辺景観への影響

(1) 検討範囲と視点場の確認

施設整備に係る景観配慮対策の検討範囲は、基本的に整備対象施設の可視領域であり、この範囲において、地域住民等のまなざし量を検討し、整備対象施設の景観配慮を検討する上で適切な視点場を設定することとなるが、整備対象施設の配置・規模、形などの施設計画の検討状況に応じて、適切な視点場となっているか、確認することも重要である。

視点場は、来訪者が容易に立ち入れる場所であり、整備対象施設と周辺景観との関係性が把握できる場所を設定する。具体的には、生活道路の**交差点**、公民館、役場、**広場**など日常生活に密着した公共的な施設が集合している場所や、集落内部、整備対象施設を俯瞰できる場所等が考えられるが、来訪者のまなざし量を踏まえた検討を行う。

(2) 周辺景観の視覚的表現方法

施設計画の検討状況に応じて、景観シミュレーション技術等を活用し、事業による地域景観へ及ぼす影響について検討する。事業による周辺景観への影響の把握に当たっては、どの視覚的表現方法とするか考慮しつつ調査に当たる。

4.2.2 基本構想と景観配慮対策の検討

計画的かつ効果的に良好な景観を形成するために、事業による影響を把握し、景観配慮の基本原則を踏まえた景観配慮対策を検討する。

【解 説】

1. 基本構想の作成

「景観配慮の手引き」によると、基本構想は「地域景観の概況」、「景観保全目標」、「景観配慮区域図」、「景観配慮区域における景観配慮の方向性」などを構成内容として作成することとされている。

一方で、田園環境整備マスタープラン、農村環境計画、景観法に基づく景観計画や景観に係る条例等の各種計画類が、これまで多くの市町村で定められてきている。それらの既存の計画類は基本構想の内容と合致している部分が多く、基本構想の作成に当たっては、整合を図りつつ不足する内容について、「景観配慮の手引き」に沿って作成することとなる。

表 4-1 基本構想の構成と主な内容の例

構 成	主な内容
1. 地域景観の概況	地域の概況 地域景観特性等調査の分析結果 取りまとめまでの経緯
2. 景観保全目標	地域景観の保全の姿及び景観保全の基本的な考え方
3. 景観配慮区域図	調査において作成された地域景観特性図を踏まえた景観配慮区域の配置
4. 景観配慮区域における景観配慮の方向性	景観配慮区域ごとの特性 景観配慮区域ごとの課題 景観配慮区域ごとの方向性

出典：「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」

2. 事業による周辺景観への影響の把握

(1) 検討範囲と視点場の確認

施設整備に係る景観配慮対策の検討範囲は、基本的に整備対象施設の可視領域等であり、この範囲において、地域住民等のまなざし量を検討し、整備対象施設の景観配慮を検討する上で適切な視点場を設定することとなるが、整備対象施設の配置・規模、形などの施設計画の検討状況に応じて、適切な視点場となっているか、確認することも重要である。

視点場は、地域住民や来訪者が容易に立ち入れる場所であり、整備対象施設と周辺景観との関係性が把握できる場所を設定する。具体的には、生活道路の**辻**、公民館、役場、病院など日常生活に密着した公共的な施設が集合している場所や、集落内部、整備対象施設を俯瞰できる場所等が考えられるが、地域住民や来訪者のまなざし量等を踏まえた検討を行う。

(2) 周辺景観への影響の検討

施設計画の検討状況に応じて、景観シミュレーション技術等を活用し、事業に

改 定 案	現 行																																				
【参考資料 4-16】 【景観の予測に用いられる代表的な視覚的表現方法（シミュレーション技術）】 <table border="1"> <tr> <th>表現方法</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>フォトモンタージュ</td><td>主要な観点場から撮影した写真に、整備対象施設の完成予想図を重ね合わせて、両者を合成して景観の変化を予測する方法。 合成にはコンピュータグラフィックスを応用することもある。 一般的に行われている手法で、再現性に優れた適用範囲も広い。</td></tr> <tr> <td>スケッチパース</td><td>主要な観点場からの完成予想図を透視図法によって描く方法で、背景も全て描く点でフォトモンタージュ法とは異なる。 透視図法はフォトモンタージュ法と比べて再現性の面で劣るが、景観の状況、視野範囲を自由に設定することができる。</td></tr> <tr> <td>コンピュータグラフィックス （CGパース）</td><td>コンピュータを用いて地形、植生、構造物（既存のもの、事業により新たに出現するもの）を作画する方法。 必要なデータ入力が行われていれば、予測は画面上における計算処理のみで済むことから、予測に必要な観点場が多い場合、簡略的な仮想観点場からの予測、複数箇所の比較等を行うのに有効である。 視対象（整備対象施設）を望む道路からの連続的に変化する景観（シーケンス景観）を予測することもある。</td></tr> <tr> <td>模型</td><td>周辺地域を含めて、整備対象施設の完成模型を作成し、模型上の主要な観点場からファイバースコープ等を用いた写真、動画等で景観の変化を予測する。 再現性は模型の精度に左右される。 対象範囲が限定されており、予測に必要な観点場が多く存在する場合には有効な方法である。</td></tr> </table> 出典：「環境影響評価技術ガイド 景観」（平成 20 年 3 月、環境省） 【今後適用が期待される視覚的表現方法（シミュレーション技術）】 <table border="1"> <tr> <th>表現方法</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>画像生成 AI</td><td>テキストを入力してイメージ画像を自動生成してくれる AI により短時間で高品質の画像を生成することができる。 無料版や有料版、アプリなど様々なものがあり、利用する場面にあったものを選択する。生成された画像が既存の画像（著作権）との類似性や読解性を確認することに留意する必要がある。</td></tr> <tr> <td>VR（仮想現実）</td><td>VR や 3D モニターで撮影した全周囲映像の世界（仮想現実）に実際に入り込んだような体験ができる技術。VR では仮想の世界を体験できる。</td></tr> <tr> <td>AR（拡張現実）</td><td>現実の世界に仮想の世界を重ねて「拡張」する技術。VR と異なり、現実世界の映像の上に仮想世界の情報が重なるイメージ。</td></tr> <tr> <td>MAR（融合現実）</td><td>仮想の世界と現実の世界を密接に融合させる技術。現実世界の中に仮想世界の 3D データを表示させ、実際の手や体の動きで操作できる。</td></tr> <tr> <td>プロジェクションマッピング</td><td>プロジェクターを使用して建物や物体に映像を投影し、重ね合わせた映像にさまざまな視覚効果を与える技術及びパフォーマンスのこと。VR などを駆使して物体や映像を知覚することで、非視覚的な像をリアルに体験することができる。</td></tr> <tr> <td>拡張現実ウェアラブルコンピュータ （スマートグラス）</td><td>カメラとディスプレイを搭載し、実際の景色に VR を重ねて表示することができる。それを完全に覆う非透過型や透過型のタイプがある。</td></tr> <tr> <td>3D モデルを用いた模型</td><td>UV で撮影した写真から 3D モデルを用いた 3D モデルを作成し、3D プリンタによる模型を作成する。</td></tr> </table>	表現方法	内 容	フォトモンタージュ	主要な観点場から撮影した写真に、整備対象施設の完成予想図を重ね合わせて、両者を合成して景観の変化を予測する方法。 合成にはコンピュータグラフィックスを応用することもある。 一般的に行われている手法で、再現性に優れた適用範囲も広い。	スケッチパース	主要な観点場からの完成予想図を透視図法によって描く方法で、背景も全て描く点でフォトモンタージュ法とは異なる。 透視図法はフォトモンタージュ法と比べて再現性の面で劣るが、景観の状況、視野範囲を自由に設定することができる。	コンピュータグラフィックス （CGパース）	コンピュータを用いて地形、植生、構造物（既存のもの、事業により新たに出現するもの）を作画する方法。 必要なデータ入力が行われていれば、予測は画面上における計算処理のみで済むことから、予測に必要な観点場が多い場合、簡略的な仮想観点場からの予測、複数箇所の比較等を行うのに有効である。 視対象（整備対象施設）を望む道路からの連続的に変化する景観（シーケンス景観）を予測することもある。	模型	周辺地域を含めて、整備対象施設の完成模型を作成し、模型上の主要な観点場からファイバースコープ等を用いた写真、動画等で景観の変化を予測する。 再現性は模型の精度に左右される。 対象範囲が限定されており、予測に必要な観点場が多く存在する場合には有効な方法である。	表現方法	内 容	画像生成 AI	テキストを入力してイメージ画像を自動生成してくれる AI により短時間で高品質の画像を生成することができる。 無料版や有料版、アプリなど様々なものがあり、利用する場面にあったものを選択する。生成された画像が既存の画像（著作権）との類似性や読解性を確認することに留意する必要がある。	VR（仮想現実）	VR や 3D モニターで撮影した全周囲映像の世界（仮想現実）に実際に入り込んだような体験ができる技術。VR では仮想の世界を体験できる。	AR（拡張現実）	現実の世界に仮想の世界を重ねて「拡張」する技術。VR と異なり、現実世界の映像の上に仮想世界の情報が重なるイメージ。	MAR（融合現実）	仮想の世界と現実の世界を密接に融合させる技術。現実世界の中に仮想世界の 3D データを表示させ、実際の手や体の動きで操作できる。	プロジェクションマッピング	プロジェクターを使用して建物や物体に映像を投影し、重ね合わせた映像にさまざまな視覚効果を与える技術及びパフォーマンスのこと。VR などを駆使して物体や映像を知覚することで、非視覚的な像をリアルに体験することができる。	拡張現実ウェアラブルコンピュータ （スマートグラス）	カメラとディスプレイを搭載し、実際の景色に VR を重ねて表示することができる。それを完全に覆う非透過型や透過型のタイプがある。	3D モデルを用いた模型	UV で撮影した写真から 3D モデルを用いた 3D モデルを作成し、3D プリンタによる模型を作成する。	よる地域景観へ及ぼす影響について検討する。事業による周辺景観への影響の把握に当たっては、どの視覚的表現方法で表現するかを考慮しつつ調査に当たる必要がある。 【参考資料 4-15】 【景観の予測に用いられる代表的な視覚的表現方法（シミュレーション技術）】 <table border="1"> <tr> <th>表現方法</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>フォトモンタージュ</td><td>主要な観点場から撮影した写真に、整備対象施設の完成予想図を重ね合わせて、両者を合成して景観の変化を予測する方法。 合成にはコンピュータグラフィックスを応用することもある。 最も一般的に行われている手法で、再現性に優れた適用範囲も広い。</td></tr> <tr> <td>スケッチパース</td><td>主要な観点場からの完成予想図を透視図法によって描く方法で、背景も全て描く点でフォトモンタージュ法とは異なる。 透視図法はフォトモンタージュ法と比べて再現性の面で劣るが、景観の状況、視野範囲を自由に設定することができる。</td></tr> <tr> <td>コンピュータグラフィックス</td><td>コンピュータを用いて地形、植生、構造物（既存のもの、事業により新たに出現するもの）を全て作画する方法。 必要なデータ入力が行われていれば、予測は画面上における計算処理のみで済むことから、予測に必要な観点場が多い場合、簡略的な仮想観点場からの予測、複数箇所の比較等を行うのに有効である。 視対象（整備対象施設）を望む道路からの連続的に変化する景観（シーケンス景観）を予測することもある。</td></tr> <tr> <td>模型</td><td>周辺地域を含めて、整備対象施設の完成模型を作成し、模型上の主要な観点場からファイバースコープ等を用いた写真、動画等で景観の変化を予測する。 再現性は模型の精度に左右される。 対象範囲が限定されており、予測に必要な観点場が多く存在する場合には有効な方法である。</td></tr> </table> 出典：「環境影響評価技術ガイド 景観」（平成 20 年 3 月、環境省）	表現方法	内 容	フォトモンタージュ	主要な観点場から撮影した写真に、整備対象施設の完成予想図を重ね合わせて、両者を合成して景観の変化を予測する方法。 合成にはコンピュータグラフィックスを応用することもある。 最も一般的に行われている手法で、再現性に優れた適用範囲も広い。	スケッチパース	主要な観点場からの完成予想図を透視図法によって描く方法で、背景も全て描く点でフォトモンタージュ法とは異なる。 透視図法はフォトモンタージュ法と比べて再現性の面で劣るが、景観の状況、視野範囲を自由に設定することができる。	コンピュータグラフィックス	コンピュータを用いて地形、植生、構造物（既存のもの、事業により新たに出現するもの）を全て作画する方法。 必要なデータ入力が行われていれば、予測は画面上における計算処理のみで済むことから、予測に必要な観点場が多い場合、簡略的な仮想観点場からの予測、複数箇所の比較等を行うのに有効である。 視対象（整備対象施設）を望む道路からの連続的に変化する景観（シーケンス景観）を予測することもある。	模型	周辺地域を含めて、整備対象施設の完成模型を作成し、模型上の主要な観点場からファイバースコープ等を用いた写真、動画等で景観の変化を予測する。 再現性は模型の精度に左右される。 対象範囲が限定されており、予測に必要な観点場が多く存在する場合には有効な方法である。
表現方法	内 容																																				
フォトモンタージュ	主要な観点場から撮影した写真に、整備対象施設の完成予想図を重ね合わせて、両者を合成して景観の変化を予測する方法。 合成にはコンピュータグラフィックスを応用することもある。 一般的に行われている手法で、再現性に優れた適用範囲も広い。																																				
スケッチパース	主要な観点場からの完成予想図を透視図法によって描く方法で、背景も全て描く点でフォトモンタージュ法とは異なる。 透視図法はフォトモンタージュ法と比べて再現性の面で劣るが、景観の状況、視野範囲を自由に設定することができる。																																				
コンピュータグラフィックス （CGパース）	コンピュータを用いて地形、植生、構造物（既存のもの、事業により新たに出現するもの）を作画する方法。 必要なデータ入力が行われていれば、予測は画面上における計算処理のみで済むことから、予測に必要な観点場が多い場合、簡略的な仮想観点場からの予測、複数箇所の比較等を行うのに有効である。 視対象（整備対象施設）を望む道路からの連続的に変化する景観（シーケンス景観）を予測することもある。																																				
模型	周辺地域を含めて、整備対象施設の完成模型を作成し、模型上の主要な観点場からファイバースコープ等を用いた写真、動画等で景観の変化を予測する。 再現性は模型の精度に左右される。 対象範囲が限定されており、予測に必要な観点場が多く存在する場合には有効な方法である。																																				
表現方法	内 容																																				
画像生成 AI	テキストを入力してイメージ画像を自動生成してくれる AI により短時間で高品質の画像を生成することができる。 無料版や有料版、アプリなど様々なものがあり、利用する場面にあったものを選択する。生成された画像が既存の画像（著作権）との類似性や読解性を確認することに留意する必要がある。																																				
VR（仮想現実）	VR や 3D モニターで撮影した全周囲映像の世界（仮想現実）に実際に入り込んだような体験ができる技術。VR では仮想の世界を体験できる。																																				
AR（拡張現実）	現実の世界に仮想の世界を重ねて「拡張」する技術。VR と異なり、現実世界の映像の上に仮想世界の情報が重なるイメージ。																																				
MAR（融合現実）	仮想の世界と現実の世界を密接に融合させる技術。現実世界の中に仮想世界の 3D データを表示させ、実際の手や体の動きで操作できる。																																				
プロジェクションマッピング	プロジェクターを使用して建物や物体に映像を投影し、重ね合わせた映像にさまざまな視覚効果を与える技術及びパフォーマンスのこと。VR などを駆使して物体や映像を知覚することで、非視覚的な像をリアルに体験することができる。																																				
拡張現実ウェアラブルコンピュータ （スマートグラス）	カメラとディスプレイを搭載し、実際の景色に VR を重ねて表示することができる。それを完全に覆う非透過型や透過型のタイプがある。																																				
3D モデルを用いた模型	UV で撮影した写真から 3D モデルを用いた 3D モデルを作成し、3D プリンタによる模型を作成する。																																				
表現方法	内 容																																				
フォトモンタージュ	主要な観点場から撮影した写真に、整備対象施設の完成予想図を重ね合わせて、両者を合成して景観の変化を予測する方法。 合成にはコンピュータグラフィックスを応用することもある。 最も一般的に行われている手法で、再現性に優れた適用範囲も広い。																																				
スケッチパース	主要な観点場からの完成予想図を透視図法によって描く方法で、背景も全て描く点でフォトモンタージュ法とは異なる。 透視図法はフォトモンタージュ法と比べて再現性の面で劣るが、景観の状況、視野範囲を自由に設定することができる。																																				
コンピュータグラフィックス	コンピュータを用いて地形、植生、構造物（既存のもの、事業により新たに出現するもの）を全て作画する方法。 必要なデータ入力が行われていれば、予測は画面上における計算処理のみで済むことから、予測に必要な観点場が多い場合、簡略的な仮想観点場からの予測、複数箇所の比較等を行うのに有効である。 視対象（整備対象施設）を望む道路からの連続的に変化する景観（シーケンス景観）を予測することもある。																																				
模型	周辺地域を含めて、整備対象施設の完成模型を作成し、模型上の主要な観点場からファイバースコープ等を用いた写真、動画等で景観の変化を予測する。 再現性は模型の精度に左右される。 対象範囲が限定されており、予測に必要な観点場が多く存在する場合には有効な方法である。																																				
	3. 景観配慮方針の検討 周辺景観と整備対象施設との調和を図るため、景観配慮の基本原則である「除去・遮蔽」、「修景・美化」、「保全」、「創造」の四つの考え方を参考に、景観配慮の基本的な方向性を明らかにする。 農地・農業水利施設等は、地域の農業及び生活の持続的発展に欠かすことのできない基盤であり、永続的な施設機能の維持を行うことが求められる。そのため、施設整備及び維持管理等により施設機能や安全性の維持を図るとともに、施設の存在や役割についての地域住民等の認知度を高めていくことも重要な取組となる。 景観配慮計画を検討する上では、周辺景観になじませる、目立たなくするといった方針に基づく検討の他に、周囲と対比的な色彩、形状を採用しつつ周辺景観との調和を図る方針についても検討し、複数案とすることが望ましい。																																				

3. 景観配慮方針の検討

周辺景観と整備対象施設との調和を図るため、景観配慮の基本原則である「除去・遮蔽」、「修景・美化」、「保全」、「創造」の4つの考え方を参考に、景観配慮の基本的な方向性を明らかにする。

農地・農業水利施設等は、地域の農業及び生活の持続的発展に欠かすことのできない基盤であり、永続的な施設機能の維持を行うことが求められる。そのため、施設整備や維持管理等により施設機能や安全性の維持を図るとともに、施設の有存在や役割についての地域住民等の認知度を高めていくことも重要な取組となる。

景観配慮計画を検討する上では、周辺景観になじませる、目立たなくするといった方針に基づく検討のほか、周囲と対比的な色彩、形状を採用しつつ周辺景観との調和を図る方針についても検討し、複数案とすることが望ましい。

4. 景観配慮対策案の検討

調査段階で行っている「事業による景観への影響の把握」を踏まえ、計画段階で検討する景観配慮対策案を作成する。

景観配慮対策案は、景観配慮の基本原則を踏まえつつ、整備対象施設の整備内容や施設機能を勘案した上で、周辺景観とどのように調和を図るかにについて整備対象施設の完成イメージ図などを用いて検討を行う。

5. 地域住民等の意向の把握

施設の完成イメージ図を基に、地域住民等の景観配慮対策についての意向を把握する。意向の把握に当たっては、対象となる地域住民の属性（農家、**非農家**）や人数等を勘案し、アンケートや聞き取り、ワークショップ等の手法を用いて実施する。

特に、ワークショップでは、地域住民等と事業主体が**景観配慮**対策や地域の景観形成について、**直接**意見交換を行うことができるため、対策を促進する効果が期待できる。

対策の効果を施設整備後においても維持、発揮するため、地域住民の事業における景観配慮や、地域における景観形成活動についての認知度を高める方策が重要となる。

4. 景観配慮対策案の検討

調査段階で行っている「事業による景観への影響の把握」を踏まえ、計画段階で検討する景観配慮対策案を作成する。

景観配慮対策案は、景観配慮の基本原則を踏まえつつ、整備対象施設の整備内容や施設機能を勘案した上で、周辺景観とどのように調和を図るかにについて整備対象施設の完成イメージ図などを用いて検討を行う。

5. 地域住民等の意向の把握

施設の完成イメージ図を基に、地域住民等の景観配慮対策についての意向を把握する。意向の把握に当たっては、対象となる地域住民の属性（農家、農家以外の住民等）や数等を勘案し、アンケートや聞き取り、ワークショップ等の手法を用いて実施する。

特に、ワークショップ等の実施に当たっては、その場で地域住民等と事業主体や関係行政機関等と対策や地域の景観形成についての意見交換を行うことができるため、対策を促進する効果が期待できる。

対策の効果を施設整備後においても維持、発揮するため、地域住民の事業における景観配慮や、地域における景観形成活動についての認知度を高める方策が重要となる。

【参考事例 4-2】

【景観シミュレーション技術の活用例】

（農山漁村地域復興基盤総合整備事業 古高地区（区画整理）（岩手県大船渡市））

東日本大震災における農地復興計画策定の作成において、景観シミュレーション技術の活用により地域合意形成の支援を行った事例の一部について紹介する。

地域づくりにおける景観シミュレーションは、住民説明会などにおいて意見啓発と環境の再認識、将来像の検討において役割を発揮する。

本事例での景観シミュレーションは、①二次元デジタル画像処理（二次元デジタル画像を、画像処理機能を用いて修正し2つ以上の画像を合成して一つの画像にする方法）、②三次元 CG（二次元データ（図面等）をもとに、三次元デジタルデータに変換・入力よりコンピュータの中に三次元の空間を仮想設計するコンピュータグラフィックスの方法）としている。

①は、例えば現地の画像と模型の画像を合成したり、よく似た構造物の画像を二次元上で変形させたり、色彩を変化させて、これから建てる構造物の完成予想のイメージを作成するものである。②は、三次元データであることから、あらゆる角度からの景観シミュレーションが可能であり、新設する構造物の全体的なイメージを造成前に知ることができる。

二次元デジタル画像処理には、「ランドスケープイメージャー」（農林工学研究）を用い、三次元 CG については、三次元 GIS エンジン「VISE」（山本（2006））と Watson 社の CIVIL3D を併用した事例を示している。

【住民説明会における景観シミュレーションの概要】



【参考事例 4-2】

【景観シミュレーション技術の活用例】

（奥山島村地域復興基金助成金整備事業 青浜地区（区画整理）（岩手県大船渡市））

東日本大震災における農地復興計画書の作成において、景観シミュレーション技術の活用により地域合意形成の支援を行った事例の一部について紹介する。

地域づくりにおける景観シミュレーションは、住民説明会などにおいて意識啓発と環境の再認識、将来像の検討において役割を果す。

本事例での景観シミュレーションは、①二次元デジタル画像処理（二次元デジタル画像を、画像処理機能を用いて修正し2つ以上の画像を合成して1つの画像にする方法）、②三次元CG（二次元データ（図面等）を基に、三次元デジタルデータに変換・入力よりコンピュータの中に三次元の空間を仮想設計するコンピュータグラフィックスの方法）としている。

①は、例えば現地の画像と模型の画像を合成したり、よく似た構造物の画像を二次元上で変形させたり、色彩を変化させて、これから建てる構造物の完成予想のイメージを作成するものである。②は、三次元データであることから、あらゆる角度からの景観シミュレーションが可能であり、新設する構造物の主体的なイメージを造成前に知ることができる。

【住民説明会における景観シミュレーションの様子】



事例1は、地域の歴史・文化に関わる景観整備について、二次元デジタル画像処理を用いたシミュレーションしたものである。現状は、神社から撮影した写真であり地面によって鳥居が隠れている状況である。また、神社の石段前は、木々に覆われて見通しがきかない状況になっているが、過去には木々に覆われている下に鳥居があり、神社への参道があったとも言われている。この神社では4年に1度の式年大祭において、神輿（みこし）を漁船に乗せて進む祭事（海上渡御（かいてしょうとぎょ））が現在でも継続されている。

このため、シミュレーションは神社の前面を覆っている木々を切り払って海が見えるようにし、農地の区画整理の際に整備される農道を、神社からまっすぐ海へ行くことができる道として整備するという地域要望に基づいて作成したものである。

【景観シミュレーション（事例1）】



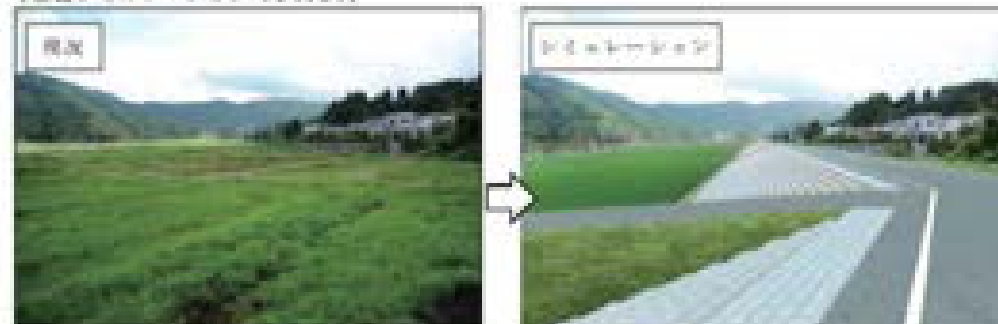
神社前面は木々に覆われ海が見えない



神輿が海へまっすぐで行くことができる道を整備。鳥居は石造り

事例2は、集落道に関する三次元CGシミュレーションであり、高台の住宅群と低地部の農地の間に集落道を整備するというものである。

【景観シミュレーション（事例2）】



住宅地と農地の間に集落道を配置したシミュレーション

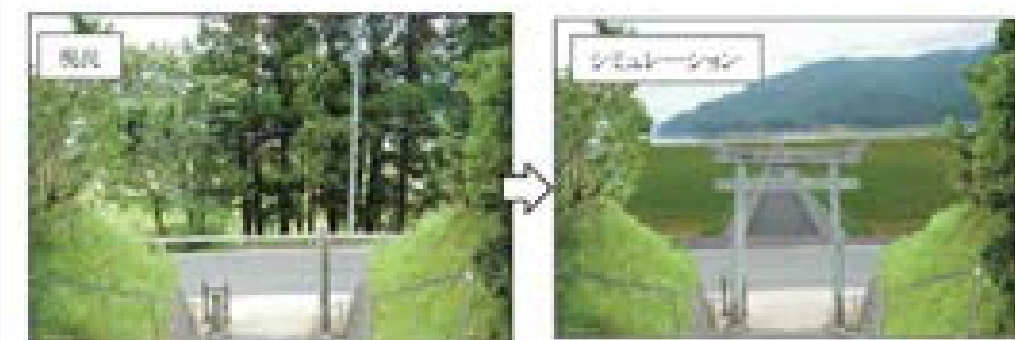
このように、シミュレーションによる具体的な情景イメージの提示は、参加者の認知度を高める上でも重要ではあるが、景観画の選択のためだけに使うということではなく、本来目的は事業後の景観と従来你的生活環境との差の確認、問題点などを発見することにあるという点に留意しなければならない。また、計画案の検討に当たっては空間の機能全体を文化、生態系、景観の観点から評価することも重要である。

（出典）山本徳司・堀寺徳文：平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震による地域復興計画支援における景観シミュレーションの活用と役割、農村工学研究所技報、第 213 号、p.29-38（2012 年）

事例1は、地域の歴史・文化に関わる景観価値について、二次元デジタル画像処理を用いシミュレーションしたものである。現況は、神社から撮影した写真であり地蔵によって鳥居が隠れている状況である。また、神社の石段前は、木々に覆われて見通しがきかない状況になっているが、過去には木々に覆われている下に鳥居があり、神社への参道があったとも言われている。この神社では4年に1度の式年大祭において、神輿（みこし）を漁船に乗せて進む祭事（海上渡御（かいじょうとぎょ））が現在でも継続されている。

このため、シミュレーションは神社の前面を覆っている木々を切り払って海が見えるようにし、農地の区画整理の際に整備される農道を、神社からまっすぐ海へ行くことができる道として整備するという地域要望に基づいて作成したものである。

【景観シミュレーション（事例1）】



神社前面は木々に覆われ海が見えない

神輿が海へまっすぐ行くことができる道路を整備。鳥居は石造り

事例2は、集落道に関する三次元CGシミュレーションであり、高台の住宅群と低地部の農地の間に集落道を整備するというものである。

【景観シミュレーション（事例2）】



住宅地と農地の間に集落道を配置したシミュレーション

このように、シミュレーションによる具体的な情景イメージの提示は、参加者の認知度を高めるうえでも重要ではあるが、景観画の選択のためだけに使うということではなく、本来目的は事業後の景観と従来你的生活環境との差の確認、問題点などを発見することにあるという点に留意しなければならない。また、計画案の検討に当たっては空間の機能全体を文化、生態系、景観の観点から評価することも重要である。

（出典）山本徳司・堀寺徳文：平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震による地域復興計画支援における景観シミュレーションの活用と役割、農村工学研究所技報、第 213 号、pp.29-38（2012 年）

改 定 案	現 行
4.2.3 景観配慮に係る維持管理計画の検討 景観に配慮して計画された施設について、必要となる維持管理項目や内容、管理主体の検討を関係者との合意形成を図りつつ行い、維持管理計画として取りまとめる。 【解 説】 1. 維持管理計画の検討 景観に配慮して整備された施設は、定期的な清掃などの維持管理により、整備後の経年変化などによる景観構成要素の劣化は軽減されるが、遮蔽のために植えた樹木の剪定や落も葉清掃などの維持管理を行うことができなくなった場合、周辺道路の通行を阻害する等により、樹木を伐採せざるを得なくなることも考えられる。 このため、計画の段階から維持管理項目や内容、管理主体の検討を関係者との合意形成を図りつつ行い、維持管理計画として取りまとめる。 2. 検討に当たっての留意点 (1) 地域住民等が参加した維持管理 農地・農業水利施設等は食料の安定供給の基盤であるとともに、維持管理を通して良好な農村景観の要素として、地域住民や国民全体の貴重な資産となる。 このため、事業主体は農家や土地改良区のみならず、地域住民全体に対して、環境に関する協議会等の活用により十分な説明を行い、地域住民等の理解を深め、景観配慮対策や良好な地域景観の形成活動に対する住民の主体性を醸成していくことが重要となる。 (2) 将来にわたる維持管理の継続性 景観に配慮した施設の維持管理は、通常の管理に比べ作業量や費用が増大する場合があり、将来における施設管理者の減少や高齢化などの地域の情勢を考慮して、維持管理の内容や作業量等の継続的な実現性について、多面的機能支払交付金の活用なども含め、検討することが必要である。	4.2.3 景観配慮に係る維持管理計画の検討 景観に配慮して計画された施設について、必要となる維持管理項目や内容、管理主体の検討を関係者との合意形成を図りつつ行い、維持管理計画として取りまとめる。 【解 説】 1. 維持管理計画の検討 景観に配慮して整備された施設は、定期的な清掃などの維持管理により、整備後の経年変化などによる景観構成要素の劣化が軽減される。 このため、計画の段階から維持管理項目や内容、管理主体の検討を関係者との合意形成を図りつつ行い、維持管理計画として取りまとめる。 2. 検討に当たっての留意点 (1) 地域住民等が参加した維持管理 農地・農業水利施設等は食料の安定供給の基盤であるとともに、維持管理を通して良好な農村景観の要素として、地域住民や国民全体の貴重な資産となる。 このため、事業主体は農家や土地改良区のみならず、地域住民全体に対して、環境に関する情報協議会等の活用により十分な説明を行い、地域住民等の理解を深め、景観配慮対策や良好な地域景観の形成活動に対する住民の主体性を醸成していくことが重要となる。 (2) 将来にわたる維持管理の継続性 景観に配慮した施設の維持管理は、通常の管理に比べ作業量や費用が増大する場合があり、将来における担い手の減少や高齢化などの地域の情勢を考慮して、維持管理の内容や作業量等の継続的な実現性について、多面的機能支払交付金制度等の活用なども含め、検討することが必要である。
- 66 -	- 60 -

【参考事例 4-3】

【住民参加による景観配慮対策の検討例】

(国営かんがい排水事業 安曇野地区(松ヶ原)(長野県安曇野市))

本地域は北アルプス連峰から流れる中小河川が形成した複合扇状地に拓けた良好な農村景観を有する田園地帯であり、古くから水田かんがいのために多くの堰(せぎ、地域では用水路を意味する)が造られている。

松ヶ原(じっかせぎ)は江戸時代の造成施設で、地域への用水供給とともに排水機能も担っており、大雨時に農地等へ溢水等被害が発生していた当地域では、既存の堰の用水機能に排水機能を付加させるための施設改修が行われている。

改修に当たっては、施設が歴史的資産として地域住民に親しまれていることや、美しい農村景観が全国的な観光地である信州あづみ野の観光資源として活用され、重要な景観構成要素となっていることから、本来の施設機能(形状や素材等)に設計上の工夫を加えることにより、従前の景観を十分に踏襲した景観配慮対策が行われている。

【整備前】



【整備後】



1. 景観配慮対策

(1) 水路断面形状と護岸形式

既存施設敷地内に排水機能を有した水路断面と管理用道路のスペースを確保するため、護岸面構造とし用地幅を最小限に抑え、法勾配を設けた玉石タイプの大断面ブロック(又は大型積ブロック)を採用し、護岸安定と自然的風合いを持たせ地域景観に配慮。

(2) 安全施設の素材と色調

防護柵(縦格子フェンス、ガードパイプ付ガードレール等)の塗装色をダークブラウンとし周囲の景観に違和感がないよう配慮。

(3) 水路沿いの樹木の保全

現況の樹木は工事の支障となる樹木のみ最小限の伐採とし、既存樹木を保全。

【水路改修断面図】



【ワークショップでの検討状況】



2. ワークショップを踏まえた合意形成

松ヶ原の全延長 1.9km のうち、国営事業の改修は 0.4km であり、うち約 2.0km の管理用道路のない区間では、水路沿いの樹木の管理が行き届かず、樹木の生い茂る状態にあった。

この区間の改修に際し、環境保全に対する地元要望を把握するため、地域住民、行政機関、改良区、グランドワーク協会等により構成するワークショップを開催し、環境に配慮した工法や住民参加を含む維持管理のあり方等について検討された。

ワークショップに参加する地域住民は、関係する町村から公募し、まずは地域景観などの現状認識と改修に対する地元要望等について情報共有し、水路の断面構造や工法の検討の後、完了後の維持管理について段階的に検討を進めた。

【参考事例 4-3】

【住民参加による景観配慮対策の検討例】

(国営かんがい排水事業 安曇野地区(松ヶ原)(長野県安曇野市))

本地域は北アルプス連峰から流れる中小河川が形成した複合扇状地に拓けた良好な農村景観を有する田園地帯であり、古くから水田かんがいのために多くの堰(せぎ、地域では用水路を意味する)が造られている。

松ヶ原(じっかせぎ)は江戸時代の造成施設で、地域への用水供給とともに排水機能も担っており、大雨時に農地等へ溢水等被害が発生していた当地域では、既存の堰の用水機能に排水機能を付加させるための施設改修が行われている。

改修に当たっては、施設が歴史的資産として地域住民に親しまれていることや、美しい農村景観が全国的な観光地である信州あづみ野の観光資源として活用され、重要な景観構成要素となっていることから、本来の施設機能(形状や素材等)に設計上の工夫を加えることにより、従前の景観を十分に踏襲した景観配慮対策が行われている。

【整備前】



【整備後】



1. 景観配慮対策

(1) 水路断面形状と護岸形式

既存施設敷地内に排水機能を有した水路断面と管理用道路のスペースを確保するため、護岸面構造とし用地幅を最小限に抑え、法勾配を設けた玉石タイプの大断面ブロック(又は大型積ブロック)を採用し、護岸安定と自然的風合いを持たせ地域景観に配慮。

(2) 安全施設の素材と色調

防護柵(縦格子フェンス、ガードパイプ付ガードレール等)の塗装色をダークブラウンとし周囲の景観に違和感がないよう配慮。

(3) 水路沿いの樹木の保全

現況の樹木は工事の支障となる樹木のみ最小限の伐採とし、既存樹木を保全。

【水路改修断面図】



【ワークショップでの検討状況】



2. ワークショップを踏まえた合意形成

松ヶ原の全延長 1.9km のうち、国営事業の改修は 0.4km であり、うち約 2.0km の管理用道路のない区間では、水路沿いの樹木の管理が行き届かず、樹木の生い茂る状態にあった。

この区間の改修に際し、環境保全に対する地元要望を把握するため、地域住民、行政機関、改良区、グランドワーク協会等により構成するワークショップを開催し、環境に配慮した工法や住民参加を含む維持管理のあり方等について検討された。

ワークショップに参加する地域住民は、関係する町村から公募し、まずは、地域景観などの現状認識と改修に対する地元要望等について情報共有し、水路の断面構造や工法の検討の後、完了後の維持管理について段階的に検討を進めた。

① 初期段階

地域環境の現状認識において、拾ヶ堰は水路機能に加えて歴史的・文化的価値を有し、北アルプスを背景とする美しい農村景観の構成要素となっていることなどの理解を深める一方で、土砂やゴミ対策等の管理努力、漏水問題等についても留意を共有。

② 中間段階

参加者が抱く施設改善のイメージを抽出し、複数の検討案を作成した後、基本的な改善工法などを確認。この際、完了後の維持管理について別途検討。

③ 最終段階

維持管理項目の確認と住民参加を組み込んだ維持管理体制の検討を実施。管理体制は土地改良区との連携の下、地域住民、行政機関、NPO、地元企業、JA等を構成員とする組織「拾ヶ堰応援隊」を設立し、拾ヶ堰の維持管理への協力や各種活動の牽引役となることを確認。

④ その他

ワークショップと並行して行われたウォーキング、自然観察会、芝の植栽、草刈りなどのイベントの活動や拾ヶ堰ガイドブックの作成は、地域住民等の事業への理解と合意形成につながる重要な要素となる。また、これらの活動は関係市町村などが行う地域活性化の取組へと展開が図られている。

【ワークショップ実施の流れ】



【魚つかみ取りイベント】



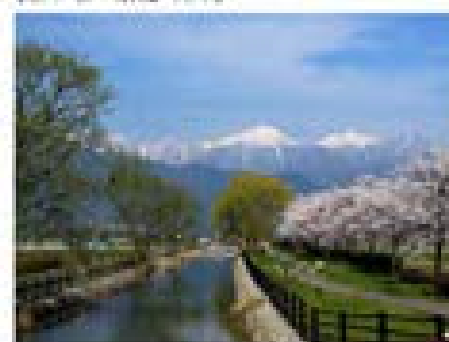
【拾ヶ堰ウォーキングイベント】



3. 改修後の姿

景観配慮対策を講じた整備後の拾ヶ堰は、住民参加を取り入れた維持管理等により、良好な景観が保たれ、四季を通じて地域が有する美しい農村景観の構成要素となっており、平成28年には世界かんがい施設遺産として登録された。

【拾ヶ堰の景観（春）】



【拾ヶ堰の景観（冬）】



① 初期段階

地域環境の現状認識において、拾ヶ堰は水路機能に加えて歴史的・文化的価値を有し、北アルプスを背景とする美しい農村景観の構成要素となっていることなどの理解を深める一方で、土砂やゴミ対策等の管理努力、漏水問題等についても留意を共有。

② 中間段階

参加者が抱く施設改善のイメージを抽出し、複数の検討案を作成した後、基本的な改善工法などを確認。この際、完了後の維持管理について別途検討。

③ 最終段階

維持管理項目の確認と住民参加を組み込んだ維持管理体制の検討を実施。管理体制は土地改良区との連携のもと、地域住民、行政機関、NPO、地元企業、JA等を構成員とする組織「拾ヶ堰応援隊」を設立し、拾ヶ堰の維持管理への協力や各種活動の牽引役となることを確認。

④ その他

ワークショップと並行して行われたウォーキング、自然観察会、芝の植栽、草刈りなどのイベントの活動や拾ヶ堰ガイドブックの作成は、地域住民等の事業等への理解と合意形成に繋がる重要な要素となる。また、これらの活動等は関係市町村などが行う地域活性化の取組へと展開が図られている。

【ワークショップ実施の流れ】



【魚つかみ取りイベント】



【拾ヶ堰ウォーキングイベント】



3 改修後の姿

景観配慮対策を講じた整備後の拾ヶ堰は、住民参加を取り入れた維持管理等により、良好な景観が保たれており、四季を通じて地域が有する美しい農村景観の構成要素となっている。

【拾ヶ堰の景観（春）】



【拾ヶ堰の景観（冬）】



4.2.4 景観配慮計画の作成

景観配慮対策等を取りまとめ、**地域住民等の意向に即う景観であるか明確にした上で**、事業地区における設計や施工、維持管理に取り込むための景観配慮計画を作成し、**設計・施工担当者に引き継ぐ。**

【解 説】

1. 景観配慮計画の目的

景観配慮計画は、基本構想（p.61 参照）に基づき、事業実施により具体的に景観がどう変化し、どのような影響を周囲に与えるか、可能な限りイメージしやすく再現し、**地域住民等の意向に配慮した景観であるか明確にすること**を目的とする。

また、調査計画段階での基礎資料や検討過程、実施の考え方が設計・施工、維持管理に引き継がれるよう、調査計画担当者から設計・施工担当者へ、**確実に景観配慮計画を引き継ぐことが必要である。**

2. 景観配慮計画の作成

事業地区全体の基本構想を踏まえ、景観配慮対策、維持管理計画等の取りまとめを行う。取りまとめに当たっては、予測される地域景観への影響や景観配慮対策が示された図面等を作成し、設計・施工における景観配慮の検討の資料として活用できるようにする。

この景観配慮計画は、事業主体のほか、市町村や農家を含む地域住民等が地域の景観に関する意識を高めるための資料としても活用できるよう、分かりやすいものとする。また、設計・施工の検討を踏まえ、内容の充実・見直しを行うことが重要である。

景観配慮施設の維持管理の機会を契機とした地域づくりは、地域の景観形成の必要性や理解醸成につながることが期待できるため、景観配慮計画作成に併せて、調査計画段階から地域の合意形成を図りつつ、地域づくりの構想を検討しておくことが有効である。

【参考資料 4-17】

〔景観配慮計画の構成例〕

1. 地域景観の概況
地域景観特性を踏まえ、地域景観の概況を記載。
2. 基本構想の概要
地域が目指す地域景観の姿及び景観配慮の基本的な考え方を記載。
3. 景観配慮の方策
 - (1) 視点場と景観への影響
計画の対象範囲と視点場の設定の考え方及び地域景観への影響を記載。
画一的な空間、新施設の整備に当たっては景観配慮を実施する区域設定も検討。
 - (2) 景観配慮対策
景観配慮のための施設整備の基本的な考え方及び方針とともに、景観配慮イメージ図などを記載。
 - (3) 維持管理計画
景観との調和に配慮した維持管理計画の記載。
 - (4) 実施上の留意点
景観との調和に配慮した設計・施工を行うための留意点を記載。
4. 推進体制
環境に関する協議会等の体制について、目的、参画主体、活動内容を記載。

※内容については、景観配慮計画との整合を図りつつ、景観配慮の実行計画として構成させる。

※本計画は「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の指針資料」に記載している**景観配慮計画と併せて作成してもよい。**

4.2.4 景観配慮計画の作成

景観配慮対策等を取りまとめ、事業地区における設計や施工、維持管理に取り組むための景観配慮計画を作成する。

【解 説】

1. 景観配慮計画の目的

良好な農村景観への配慮のため行われる農業農村整備事業での景観配慮対策は、調査計画段階での基礎資料や検討の過程、実施上の考え方が確実に設計・施工、維持管理段階に引き継がれることが重要である。

このため、調査計画担当者はこれらの事項を取りまとめた景観配慮計画を作成し、設計・施工担当者に引き継ぐことが必要である。

2. 景観配慮計画の作成

事業地区全体の基本構想を踏まえ、景観配慮対策、維持管理計画等の取りまとめを行う。取りまとめに当たっては、予測される地域景観への影響や景観配慮対策等が示された図面等を作成し、設計・施工における景観配慮の検討の資料として活用できるようにする。

この景観配慮計画は、事業主体のほか、市町村や農家を含む地域住民等が地域の景観に関する意識を高めるための資料としても活用できるよう、分かりやすいものとする。また、設計・施工の検討を踏まえ、内容の充実・見直しを行うことが重要である。

景観配慮施設の維持管理の機会を契機とした地域づくりは、地域の景観形成の必要性や理解醸成につながることが期待できるため、景観配慮計画作成に併せて、調査計画の段階から地域の合意形成を図りつつ、地域づくりの構想を検討しておくことが有効である。

【参考資料 4-16】

〔景観配慮計画の構成例〕

1. 地域景観の概況
地域景観特性を踏まえ、地域景観の概況を記載。
2. 基本構想の概要
地域が目指す地域景観の姿及び景観配慮の基本的な考え方を記載。
3. 景観配慮の方策
 - (1) 視点場と景観への影響
景観配慮計画の対象範囲と視点場の設定の考え方及び地域景観への影響を記載。
画一的、新施設の整備に当たっては景観配慮を実施する区域設定も検討。
 - (2) 景観配慮対策
景観配慮のための施設整備の基本的な考え方及び方針とともに、景観配慮イメージ図などを記載。
 - (3) 維持管理計画
景観との調和に配慮した維持管理計画の記載。
 - (4) 実施上の留意点
景観との調和に配慮した設計・施工を行うための留意点を記載。
4. 推進体制
環境に関する協議会等の体制について、目的、参画主体、活動内容を記載。

※内容については、景観配慮計画への整合を図りつつ、景観配慮の実行計画として構成させる。

【案例 4-4】

【原則村で定めている色彩ガイドライン等を参考としたシミュレーションの例】

(国営かんがい排水事業 関東南部地区(与良川排水機場) (栃木県中山南地区1市1町))

ポンプ場（排水機）の改修（2ヵ所の排水機場を1ヵ所の排水機場に統合）に当たって、関係市町村の量減法に係る量減計画のうち、色減等基準が定められている場合の量減配分計画の検討事例である。

1. 國際貿易的基礎

[illegible]

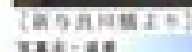
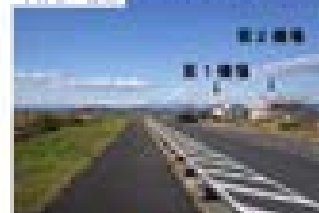
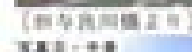
2. 現代市場の整理

近景の観点場として選
ばれた。2か所の既
設排水機場が最も見
える遊水地整備箇所
の位置を決定した。第1機場は
幅約20m・高約10m、第2
機場は幅約30m・高約
12mとなっている。

これらの施設を週末地
理的（写真①）及び公園
（生井坂づつみ公園・琴
真堂）から見るとその風
情が顕著して見える。

平屋、通風の脱衣場として脱衣場の形状を含めて眺望できる位置を選定した。

既設排水機場に近い地帯は小山田町戸屋及及び栃本町戸屋気屋であるが、それぞれ施設からの距離は遠く、気屋内から見過せる箇所は限られる。施設に向かって流下する牛久川は、排水機場に対してまっすぐに伸びており、国県道173号線が横断する橋梁から施設を視認できる(写真②)。国県道173号線(新牛久川橋)からは整備対象施設が遊水地堤防に接し、橋から視認できる程度(写真③)であった。



【參考案例 4-4】

〔市町村で定めている色別ガイドライン等を参考とした計画の例〕

(国富がくがく排水事業 熊本南部地区(与良川排水機場)(熊本県小山市徳十郎十町))

ポング川(神永橋)の改修(2箇所の神永橋を1箇所の神永橋に統合)に当たって、関係する町村の景観法に係る景観計画のうち、色部等風景が定められている場合の景観配慮対策の検討事例である。

1.

[illegible]

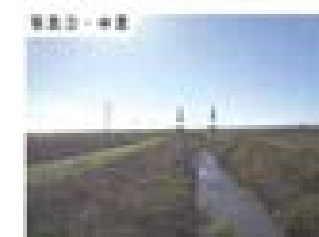
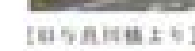
1. 理论模型与原理

近傍の標点場として近
畿地方が無く、2箇所の既設
排水機場が最もよく見ら
れる排水地帯防例の位置を
選定した。第1機場は幅約
20m×高約10m、第2機場は
幅約20m×高約12mとなっ
ている。

これらの施設を国土地理院（写真①）および財団法人（生井松づつみ公園・写真②）から見ると、その規模から窺えて見える。

中風、遠視の視点場として既設構構の形状を含めて観望できる位置を選定した。

既設排水機場に近い集落は小山市船戸及び橋本が中心であるが、それぞれ施設からの距離は遠く、荒川は、排水機場に対してす



【視点調整地図】



3. 景観配慮事項の整理

排水機場建屋の形状には機能上の制限があることから、主として周辺景観への影響軽減を意識した色彩を検討する。色彩の検討は、関係市町村の景観計画を参考とする。

＜参考：小山市景観計画による色彩の制限＞

マンセル値による色相が R、YR の場合、マンセル値による彩度も以下。同様に Y の場合は彩度 4 以下。GY、G、BG、PB、P、RP の場合、マンセル値の彩度 2 以下。

4. 景観配慮対策の検討

■基本的な考え方

- 基本原則：修景、機能上の制限から建屋形態ではなく、色彩の工夫による修景を行う。
- 整備方針と対策のイメージ：関係市町村景観計画を踏まえ、遊水地堤防や生井堀つつみ公園、周辺に広がる田園景観の中で突出感を与えず、周辺景観に調和した明度・彩度を採用する。

■整備イメージの検討（形態と色彩）

- 形態：切妻などの勾配のある屋根は、遊水地堤防や牛良川のように強く印象付けられる直線の景観に逆らう形態であり、必ずしも景観に調和しないと考えられたことから、落ち着いて周辺の景観と調和すると考えられる陸屋根のデザインとした。
- 色彩の基本：壁面積が大きいので、単一色彩では壁面が強調され存在感が増し、**周辺景観に違和感をもたらす可能性**がある。このため、外部仕上げを幾つかのパートに分け、質感、色、陰影を変えることで視覚的に存在感を薄める。
- 色彩パターン：視覚的には埋没効果を期待し、田園風景になじむ緑系（G）、黄系（YR）、ベージュ系（YR～Y）の中から選定する。

■景観シミュレーション視点場の選定

新設機場が最もよく視認される北西側に視点場を設定する。

■基本形態

- 遊水地堤防や牛良川により印象付けられる強い方向性に逆らわず、陸屋根のデザインにより周辺景観との調和を図る。
- 単一色彩では壁面が強調され存在感が増すため、外部仕上げを幾つかのパートに分け、質感、色、陰影を変えることで視覚的に存在感を薄める。
- 田園景観の色彩との調和を意識し、全般的に明度を上げて軽快な感じに仕上げる。

視認できる（写真②）。また、新鳥島川橋（新鳥島川橋）からは整備対象施設が遊水地堤防に埋没し、わずかに視認できる程度（写真③）であった。

【視点調整地図】



3. 景観配慮事項の整理

排水機場建屋の形状には機能上の制限があることから、主として周辺景観への影響軽減を意識した色彩を検討する。色彩の検討は、関係市町村の景観計画を参考とする。

＜参考：小山市景観計画による色彩の制限＞

マンセル値による色相が R、YR の場合、マンセル値による彩度も以下。同様に Y の場合は彩度 4 以下。GY、G、BG、PB、P、RP の場合、マンセル値による彩度 2 以下。

4. 景観配慮対策の検討

■基本的な考え方

- 基本原則：修景、機能上の制限から建屋形態ではなく、色彩の工夫による修景を行う。
- 整備方針と対策のイメージ：関係市町村景観計画を踏まえ、遊水地堤防や生井堀つつみ公園、周辺に広がる田園景観の中で突出感を与えず、周辺景観に調和した明度・彩度を採用する。

■整備イメージの検討（形態と色彩）

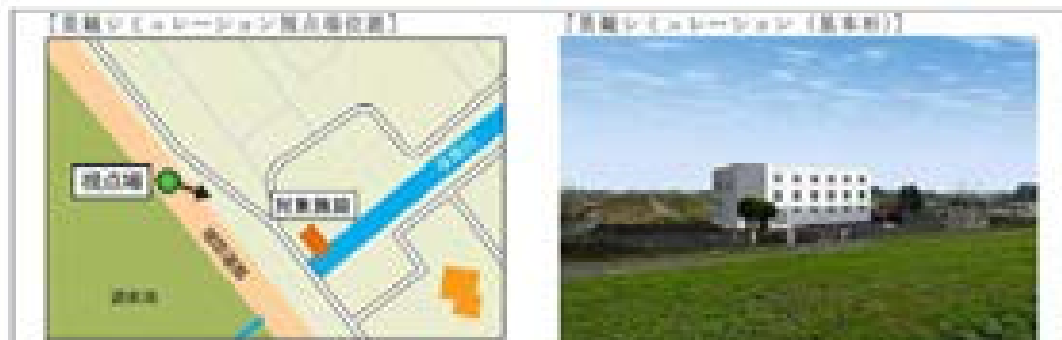
- 形態：切妻などの勾配のある屋根は、遊水地堤防や牛良川のように強く印象付けられる直線の景観に逆らう形態であり、必ずしも景観に調和しないと考えられたことから、落ち着いて周辺の景観と調和すると考えられる陸屋根のデザインとした。
- 色彩の基本：壁面積が大きいので、単一色彩では壁面が強調され存在感が増し、**周辺景観に違和感をもたらす可能性**がある。このため、外部仕上げを幾つかのパートに分け、質感、色、陰影を変えることで視覚的に存在感を薄める。
- 色彩パターン：視覚的には埋没効果を期待し、田園風景になじむ緑系（G）、黄系（YR）、ベージュ系（YR～Y）の中から選定する。

■景観シミュレーション視点場の選定

新設機場が最もよく視認される北西側に視点場を設定する。

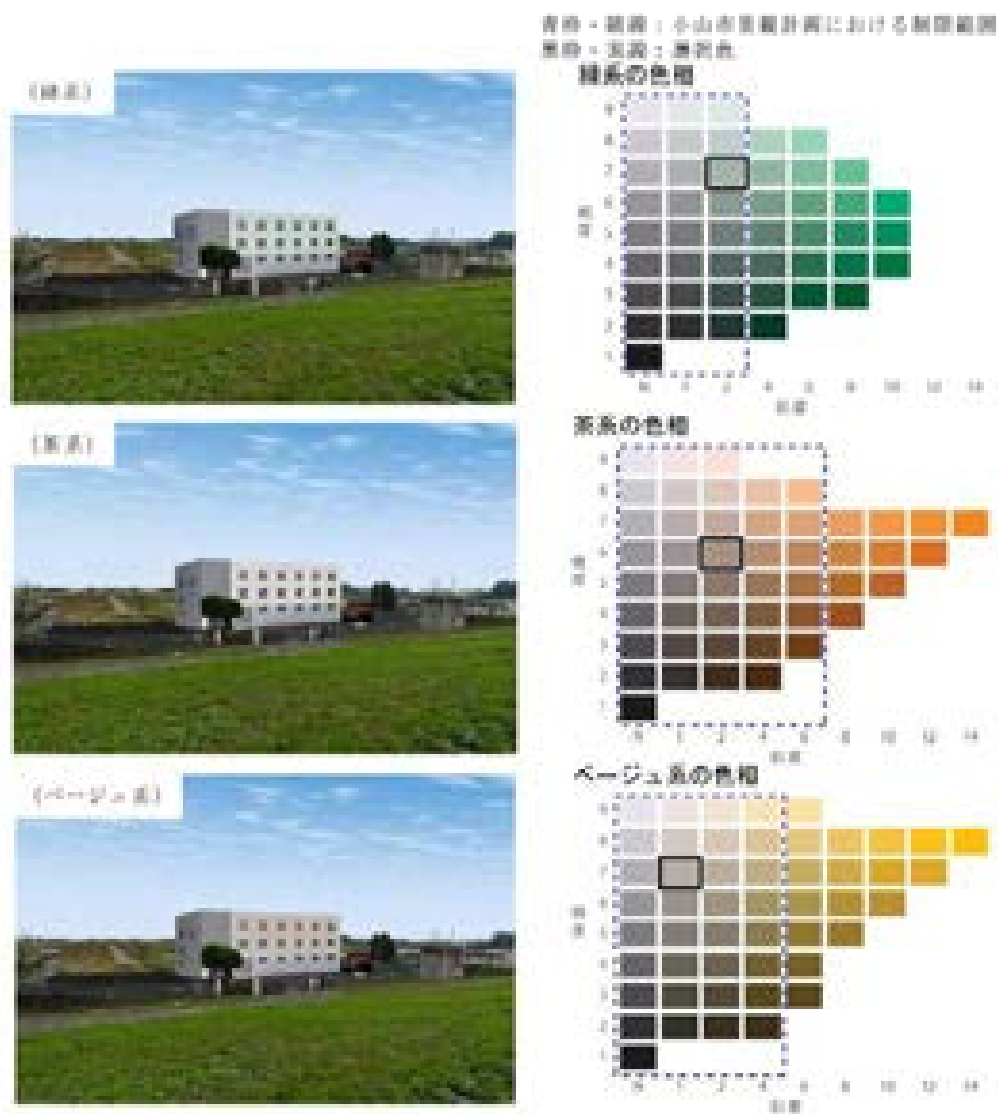
■基本形態

- 遊水地堤防や牛良川により印象付けられる強い方向性に逆らわず、陸屋根のデザインにより周辺景観との調和を図る。
- 単一色彩では壁面が強調され存在感が増すため、外部仕上げを幾つかのパートに分け、質感、色、陰影を変えることで視覚的に存在感を薄める。
- 田園景観の色彩との調和を意識し、全般的に明度を上げて軽快な感じに仕上げる。



■景観シミュレーション

○新機場の基本形をベースに緑、茶、ベージュ系を配色したシミュレーションを行った。

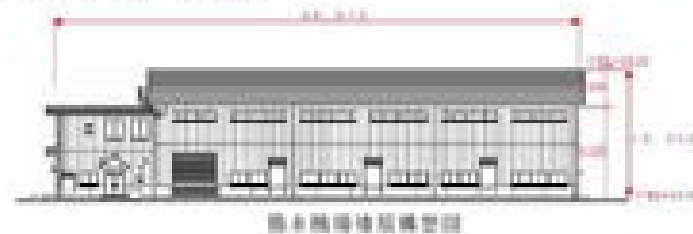


【参考事例 4-5】

【ポンプ場の景観配慮対策の検討例】

(国営かんがい排水事業 高砂用水地区 (第3揚水機場) (千葉県山武市))

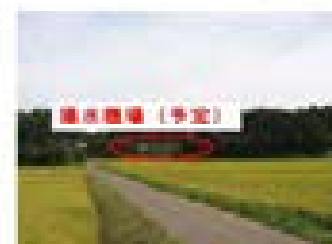
ポンプ場(揚水機)を新設する際の、景観配慮対策を示した事例である。
施設の整備構想は下図のとおり、揚水機場建屋が幅(W)48.875m、高さ(H)12.350m(EL(標高)=19.99~31.35)を予定している。



1. 周辺景観の概要

揚水機場の整備予定位置は山地の西側山腹に計画。施設設置位置と周辺集落の位置関係は南西側にA集落、北側にB集落、山地を挟み南東側にC集落が位置している。なお、幹線道路である国道は揚水機場の整備予定位置の南東側に位置しているが、整備予定位置からは内地により不可視範囲となっており、可視範囲には数本の農道が位置している。

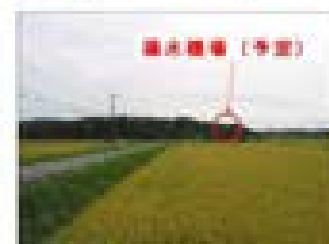
【整備対象施設の位置図】



①河川の農道からの景観(距離140m)【近景】



②A集落方向の農道からの景観(距離400m)【近景】



③B集落の農道からの景観(距離500m)【中景】



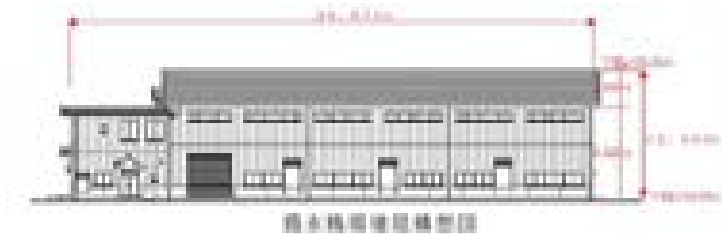
④C集落方向の農道からの景観(距離300m) 山地により景観できず

【参考事例 4-5】

【ポンプ場の景観配慮対策の検討例】

(国営かんがい排水事業 高砂用水地区 (第3揚水機場) (千葉県山武市))

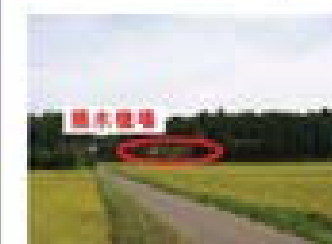
ポンプ場(揚水機)を新設する際の、景観配慮対策を示した事例である。
施設の整備構想は下図のとおり、揚水機場建屋が長さ48.875m、高さ12.350m(EL=19.99~31.35)を予定している。



1. 周辺景観の概要

揚水機場の設置予定位置は山地の西側山腹に計画。施設設置位置と周辺集落の位置関係は南西側にA集落、北側にB集落、山地を挟み南東側にC集落が位置している。なお、幹線道路である国道は揚水機場の設置予定位置の南東側に位置しているが、設置予定位置からは山地により不可視範囲となっており、可視範囲には数本の農道が位置している。

【整備対象施設の位置図】



①河川の農道からの景観(距離140m)【近景】



②A集落方向の農道からの景観(距離400m)【近景】



③B集落の農道からの景観(距離500m)【中景】



④C集落方向の農道からの景観(距離300m) 山地により景観できず